

事業番号	事業名	内容	対象外 項目番号
1	郷土資料館運営事務事業	郷土資料館運営事務、協議会の開催	②
2	郷土資料館維持管理事業	郷土資料館の維持管理	-
3	郷土資料館学芸活動事業	資料収集・整理、調査・研究等の郷土資料館の学芸活動	-
4	教育普及・企画展事業	教育普及活動及び企画展の開催	-
5	旧吉田茂邸運営事務事業	旧吉田茂邸の運営事務	②
6	旧吉田茂邸維持管理事業	旧吉田茂邸の維持管理	-
7	旧吉田茂邸学芸活動事業	資料調査・研究等の旧吉田茂邸の学芸活動	-
8	旧吉田茂邸研修等事業	旧吉田茂邸独自イベントの実施	-





予算事業名	郷土資料館維持管理事業					事業番号	10 - 23 - 02	
細分事業名	郷土資料館維持管理事業					シート作成日	令和1年8月9日	
予算科目	会計	01	款	10	項	05	目	03
						事業	03	
					事業開始年度	昭和63年度		
					事業終了予定年度	—		
部 等 名			課 等 名			係 名		
教育部			生涯学習課			郷土資料館		

事業計画 (Plan)	総合計画	柱	—			
		部門	—			
		大施策	—			
		中施策	—			
		施策目標	—			
	事業の概要	根拠法令・条例等	大磯町郷土資料館条例			
		個別計画等	—			
		行政経営プラン 実施計画事業	実施番号	—	実施項目名	—
		目的 (何のために)	安全で快適に利用できるように環境整備を行う。			
		対象 (誰を・何を)	観覧者を対象に、快適な学習環境を提供する。			
	内容	年間を通した敷地及び施設の維持管理。 安全で快適に利用できる環境づくり。				

事業実施 (Do)	執行体制		一部委託あり					
	事業費	直接事業費 (a)	単位	H28年度 (決算)	H29年度 (決算)	H30年度 (決算見込)	R01年度 (予算)	
		財源内訳	国庫支出金	千円	9,217	10,390	10,361	11,670
			県支出金					
			起債					
			その他					
			一般財源	千円	9,217	10,390	10,361	18,040
	職員人数 (概算職員数)	人	0.55	0.60	0.60	0.50		
		人件費計 (b)	千円	3,021	3,386	3,261	2,945	
		総事業費 (a) + (b)	千円	12,238	13,776	13,622	14,615	
	事業費内訳 (千円) R 01 年度	需用費 2,692千円、 役務費 145千円、 委託料 8,785千円、 使用料及び賃借料 48千円						
指標値	本事業が属する総合計画の中施策の成果指標		指標名			目標値		
			—			—		
	指標名		単位	項目	H29年度 (決算)	H30年度 (決算見込)	R01年度 (予算)	R02年度 (目標)
	対象指標 (対象者数等)	利用者数	人	—	35,826	28,900	30,000	30,000
	活動指標 (活動量)	開館日数	日	計画値	297	298	298	298
				実績値	294	299	—	—
成果指標 (達成度等)	一日あたりの利用人数	人/日	目標値	105	101	101	101	
			実績値	122	97	—	—	
			達成率	116.2%	96.0%	—	—	
	定性的成果	—						

事務事業の評価 (Check)	妥当性	事業の実施に対する町民ニーズはあるか	② 変わらずにある		
		事業の廃止・休止による町民生活への影響は大きい	③ 廃止・休止による影響は大きくある		
		今後も町が実施すべき事業か	⑤ 代替となる他機関でのサービスがないため、今後も町が実施する必要がある		
	効率性	事業費に削減の余地はないか	② ない		
		関連・類似事業との統合はできないか	③ 統合できない		
	有効性	事業の成果は得られているか	② 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である		
		事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	③ 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している		
	公平性	受益者負担は公平・公正か	B. 負担未導入	B-② 受益者はいるが、今後も公費により全額町が負担すべきものである	
		過去の外部評価における指摘事項	—		
		主な改善経過 (過去4年間)	平成27年度：トイレ洗面器水栓修繕、浄化槽漏電修繕、キャンチラック設置工事 平成28年度：トイレ改修工事、雨水槽排水ポンプ修繕、ショーケース照明修繕 他 平成29年度：空調機冷媒配管結露工事、マップケース修繕、屋外機置場屋根修繕工事 他 平成30年度：第1収蔵庫床修繕工事、昇降機シリンダーパッキン・停電管制用及び非常灯用バッテリー装置交換工事 他		
	課題	長期修繕計画に基づき設備の更新工事を行っていく必要がある。			

取組内容の改善 (Action)	今後の方向性の判断	区分	<b>維持</b>	H30年度	維持	H29年度	—	H28年度	—	
		理由	大磯町公共施設等第1期個別施設計画に基づき、長寿命化を図る必要があるため。							
		課題解決への視点	設備等の修繕、更新について、計画的な維持管理を行うよう努める。							
	着手する事項	R01年度	状況により優先順位の高い修繕内容に着手する。							
		R02年度	状況により優先順位の高い修繕内容に着手する。							
		R01年度改善事項	空調機修繕、除湿機排水ドレン管修繕等、緊急性の高い修繕に着手した。 中央監視装置工事を実施した。							
		記入日								
		令和2年2月6日								

予算事業名	郷土資料館学芸活動事業								事業番号	10 - 23 - 03	
細分事業名	郷土資料館学芸活動事業								シート作成日	令和1年8月9日	
予算科目	会計	01	款	10	項	05	目	03	事業	04	
	事業開始年度										昭和63年度
事業終了予定年度										—	
部等名				課等名				係名			
教育部				生涯学習課				郷土資料館			

事業計画 (Plan)	総合計画	柱	—		
		部門	—		
		大施策	—		
		中施策	—		
		施策目標	—		
		根拠法令・条例等	大磯町郷土資料館条例		
	個別計画等	—			
	行政経営プラン 実施計画事業	実施番号	—	実施項目名	—
	目的 (何のために)	資料収集・整理を行い、研究成果をさまざまな活動に還元する。また、あらゆるレファレンスに対応できるようにデータを蓄積する。			
	対象 (誰を・何を)	大磯町内外の利用者を対象に、地域の情報を発信する。			
内容	館のテーマである「湘南の丘陵と海」に基づき、考古・歴史・民俗・自然資料の資料収集、整理分類、調査研究等を行い、これらを展示の一部に還元するとともに、収蔵資料目録の作成や研究成果の一部を発表する。				

事業実施 (Do)	執行体制		職員実施				
			単位	H28年度 (決算)	H29年度 (決算)	H30年度 (決算見込)	R01年度 (予算)
	直接事業費 (a)		千円	3,071	3,467	2,497	7,702
	財源内訳	国庫支出金	千円				
		県支出金					
		起債					
		その他					
		一般財源		3,071	3,467	2,497	7,702
	職員人数 (概算職員数)		人	0.55	0.60	0.95	0.70
	人件費計 (b)		千円	2,848	4,797	5,163	4,123
総事業費 (a) + (b)		千円	5,919	8,264	7,660	11,825	
事業費内訳 (千円) R 01 年度		共済費 47千円、賃金 3,881千円、旅費 34千円、需用費 477千円、役務費 19千円、委託料 3,132千円、使用料及び賃借料 12千円、備品購入費 100千円					

指標値	本事業が属する総合計画の中施策の成果指標		指標名				目標値	
			—				—	
	指標名		単位	項目	H29年度 (決算)	H30年度 (決算見込)	R01年度 (予算)	R02年度 (目標)
	対象指標 (対象者数等)	収集資料	件	—	23	20	20	20
	活動指標 (活動量)	執筆数	本	計画値	12	14	12	16
				実績値	17	10	—	—
	成果指標 (達成度等)	執筆数	本	目標値	12	14	12	16
				実績値	17	10	—	—
				達成率	141.7%	71.4%	—	—
	定性的成果		—					

事務事業の評価 (Check)	妥当性	事業の実施に対する町民ニーズはあるか	④ ニーズに応じて実施する事業ではない			
		事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	③ 廃止・休止による影響は大きくある			
		今後も町が実施すべき事業か	⑤ 代替となる他機関でのサービスがないため、今後も町が実施する必要がある			
	効率性	事業費に削減の余地はないか	② ない			
		関連・類似事業との統合はできないか	③ 統合できない			
	有効性	事業の成果は得られているか	② 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である			
		事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	③ 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している			
	公平性	受益者負担は公平・公正か	A. 負担導入済	A-② 適正な受益者負担を導入している		
		過去の外部評価における指摘事項	—			
		主な改善経過(過去4年間)	平成28年度のリニューアルに向けての調査、資料収集等を行い、リニューアル後の展示等に反映させた。			
	課題	収蔵環境の整備、収蔵資料の整理を継続して行う必要がある。				

取組内容の改善 (Action)	今後の方向性の判断	区分	<b>維持</b>	H30年度	維持	H29年度	—	H28年度	—	
		理由	社会教育施設(博物館)として、継続した活動を行っていく必要があるため。							
		課題解決への視点	必要な資料や情報を効率的に利用できるよう相談に応じるサービスを展開し、来館者の知識向上に努める。							
	着手する事項	R01年度	館のテーマである「湘南の丘陵と海」に沿った各分野の調査・研究活動等を継続するとともに、収蔵資料の整備を継続する。							
		R02年度	館のテーマである「湘南の丘陵と海」に沿った各分野の調査・研究活動等を継続するとともに、収蔵資料の整備を継続する。							
		R01年度改善事項	考古、歴史、民俗、自然科学の各分野の調査・研究活動等を継続し、収蔵資料の整備を実施し教育普及・企画展事業に反映させた。							
		記入日								
		令和2年2月6日								

予算事業名	教育普及・企画展事業								事業番号	10 - 23 - 04	
細分事業名	教育普及・企画展事業								シート作成日	令和1年8月9日	
予算科目	会計	01	款	10	項	05	目	03	事業	05	
	事業開始年度										昭和63年度
事業終了予定年度										—	
部等名				課等名				係名			
教育部				生涯学習課				郷土資料館			

事業計画 (Plan)	総合計画	P	柱	—								
			部門	—								
			大施策	—								
			中施策	—								
			施策目標	—								
	事業の概要			根拠法令・条例等	大磯町郷土資料館条例							
				個別計画等	—							
	行政経営プラン 実施計画事業			実施番号	—			実施項目名	—			
	目的 (何のために)			他の教育施設との連携、町民との協働による博物館活動を展開する。								
	対象 (誰を・何を)			大磯町内外の利用者に対して、地域の情報を発信する。								
内容			町民との協働作業を意識し、ワークショップ形式の事業を実施する。 常設展示では取り扱っていない分野を補うとともに、更に深く掘り下げたテーマ展示を実施する。									

事業実施 (Do)	執行体制		職員実施					
			単位	H28年度 (決算)	H29年度 (決算)	H30年度 (決算見込)	R01年度 (予算)	
	直接事業費 (a)		千円	1,607	1,261	1,513	1,184	
	財源内訳	国庫支出金	千円					
		県支出金						
		起債						
		その他						
		一般財源		1,607	1,261	1,513	1,184	
	職員人数 (概算職員数)		人	0.55	0.60	0.95	0.45	
	人件費計 (b)		千円	4,272	4,232	5,163	2,651	
総事業費 (a) + (b)		千円	5,879	5,493	6,676	3,835		
事業費内訳 (千円) R 01 年度		報償費 40千円、 旅費 11千円、 需用費 1,133千円						
本事業が属する総合計画 の中施策の成果指標			指標名			目標値		
			—			—		
指標値	指標名		単位	項目	H29年度 (決算)	H30年度 (決算見込)	R01年度 (予算)	R02年度 (目標)
	対象指標 (対象者数等)	企画展入館者数	人	—	21,223	14,799	20,000	20,000
	活動指標 (活動量)	企画展開催数	本	計画値	4	4	2	2
				実績値	4	3	—	—
	成果指標 (達成度等)	企画展1回当たりの入館者数	人	目標値	5,000	5,000	5,000	5,000
				実績値	5,305	4,933	—	—
達成率				106.1%	98.7%	—	—	
定性的成果		—						

事務事業の評価 (Check)	妥当性	事業の実施に対する町民ニーズはあるか	③ 増大している		
		事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	③ 廃止・休止による影響は大きくある		
		今後も町が実施すべき事業か	⑤ 代替となる他機関でのサービスがないため、今後も町が実施する必要がある		
	効率性	事業費に削減の余地はないか	② ない		
		関連・類似事業との統合はできないか	③ 統合できない		
	有効性	事業の成果は得られているか	② 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である		
		事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	③ 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している		
	公平性	受益者負担は公平・公正か	B. 負担未導入	B-② 受益者はいるが、今後も公費により全額町が負担すべきものである	
	過去の外部評価における指摘事項	—			
	主な改善経過(過去4年間)	平成28年度のリニューアルに向けての調査、資料収集等を行い、リニューアル後の企画展・各種講座に反映させた。			
課題	多様化、高度化する利用者の学習要求に沿った展示、講座等の事業展開を進める必要がある。				

取組内容の改善 (Action)	今後の方向性の判断	区分	<b>維持</b>	H30年度	維持	H29年度	—	H28年度	—	
		理由	社会教育施設(博物館)として、継続した活動を行っていく必要があるため。							
	課題解決への視点	町民との協働作業を意識し、ワークショップ形式の事業を実施し、独自性の高い展示など創意工夫を凝らした企画展を開催するよう努める。								
	着手する事項	R01年度	郷土資料館、旧吉田茂邸の一体運営を進めるにあたって、2施設の相乗効果が得られるような企画を検討、実施する。							
		R02年度	郷土資料館、旧吉田茂邸の一体運営を進めるにあたって、2施設の相乗効果が得られるような企画を検討、実施する。							
	R01年度改善事項	下記企画展の開催及び各種講座を実施した。 ・企画展「吉田茂新収蔵資料展」 ・秋季企画展「嶋立庵」								
	記入日									
	令和2年2月6日									

予算事業名	旧吉田茂邸維持管理事業							事業番号	10 - 23 - 06	
細分事業名	旧吉田茂邸維持管理事業							シート作成日	令和1年8月9日	
予算科目	会計	01	款	10	項	05	目	03	事業	07
								事業開始年度	平成29年度	
							事業終了予定年度	—		
部 等 名				課 等 名				係 名		
教育部				生涯学習課				郷土資料館		

事業計画 (Plan)	総合計画	柱	—			
		部門	—			
		大施策	—			
		中施策	—			
		施策目標	—			
	事業の概要	根拠法令・条例等	大磯町郷土資料館条例			
		個別計画等	—			
		行政経営プラン 実施計画事業	実施番号	—	実施項目名	—
		目的 (何のために)	安全で快適に利用できるように環境整備を行う。			
		対象 (誰を・何を)	観覧者を対象に、快適な学習環境を提供する。			
	内容	年間を通じた敷地及び施設の維持管理。 安全で快適に利用できる環境づくり。				

事業実施 (Do)	執行体制		職員実施					
	事業費	直接事業費 (a)	単位	H28年度 (決算)	H29年度 (決算)	H30年度 (決算見込)	R01年度 (予算)	
		財源内訳	千円	—	7,338	7,704	7,937	
			国庫支出金	千円				
			県支出金					
			起債					
			その他					
	一般財源	7,338	7,704		7,937			
	職員人数 (概算職員数)	人	—	0.70	0.70	0.60		
	人件費計 (b)	千円	—	2,822	3,805	2,851		
総事業費 (a) + (b)	千円	—	10,160	11,509	10,788			
事業費内訳 (千円) R 01 年度	需用費 2,170千円、 役務費 730千円、 委託料 5,037千円							
指標値	本事業が属する総合計画の中施策の成果指標		指標名			目標値		
			—			—		
	指標名		単位	項目	H29年度 (決算)	H30年度 (決算見込)	R01年度 (予算)	R02年度 (目標)
	対象指標 (対象者数等)	利用者数	人	—	104,227	62,698	50,320	38,000
	活動指標 (活動量)	開館日数	日	計画値	297	298	298	296
				実績値	298	298	—	—
	成果指標 (達成度等)	一日あたりの利用人数	人/日	目標値	114	218	168	128
実績値				349	210	—	—	
達成率				306.1%	96.3%	—	—	
定性的成果	—							

事務事業の評価 (Check)	妥当性	事業の実施に対する町民ニーズはあるか	② 変わらずにある		
		事業の廃止・休止による町民生活への影響は大きい	③ 廃止・休止による影響は大きくある		
		今後も町が実施すべき事業か	⑤ 代替となる他機関でのサービスがないため、今後も町が実施する必要がある		
	効率性	事業費に削減の余地はないか	② ない		
		関連・類似事業との統合はできないか	③ 統合できない		
	有効性	事業の成果は得られているか	② 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である		
		事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	③ 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している		
	公平性	受益者負担は公平・公正か	B. 負担未導入	B-② 受益者はいるが、今後も公費により全額町が負担すべきものである	
	過去の外部評価における指摘事項	—			
	主な改善経過 (過去4年間)	平成29年度：監視カメラ増設工事、食堂展示ケースガラス修繕 平成30年度：障子張替工事			
課題	長期修繕計画に基づき設備の更新工事を行っていく必要がある。				

取組内容の改善 (Action)	今後の方向性の判断	区分	<b>維持</b>	H30年度	—	H29年度	—	H28年度	—	
		理由	社会教育施設（博物館）として、継続した活動を行っていく必要があるため。							
	課題解決への視点	設備等の修繕、更新について、計画的な維持管理を行うよう努める。								
	着手する事項	R01年度	状況により優先順位の高い修繕内容に着手する。							
		R02年度	状況により優先順位の高い修繕内容に着手する。							
	R01年度改善事項	優先順位が高い修繕について工事を実施した。								
	記入日									
	令和2年1月29日									

予算事業名	旧吉田茂邸学芸活動事業								事業番号	10 - 23 - 07	
細分事業名	旧吉田茂邸学芸活動事業								シート作成日	令和1年8月9日	
予算科目	会計	01	款	10	項	05	目	03	事業	08	
	事業開始年度 平成29年度										
事業終了予定年度 —											
部 等 名				課 等 名				係 名			
教育部				生涯学習課				郷土資料館			

事業計画 (Plan)	総合計画	柱	—		
		部門	—		
		大施策	—		
		中施策	—		
		施策目標	—		
		根拠法令・条例等	大磯町郷土資料館条例		
	個別計画等	—			
	行政経営プラン 実施計画事業	実施番号	—	実施項目名	—
	目的 (何のために)	資料収集・整理を行い、研究成果をさまざまな活動に還元する。また、あらゆるレファレンスに対応できるようにデータを蓄積する。			
	対象 (誰を・何を)	大磯町内外の利用者を対象に、吉田茂に関する情報を発信する。			
内容	館のテーマである吉田茂の関連資料の資料収集、整理分類、調査研究等を行い、これらを展示の一部に還元するとともに、収蔵資料目録の作成や研究成果の一部を発表する。				

事業実施 (Do)	執行体制		職員実施					
	事業費	財源内訳	直接事業費 (a)	単位	H28年度 (決算)	H29年度 (決算)	H30年度 (決算見込)	R01年度 (予算)
			国庫支出金	千円	—	2,304	2,347	3,700
			県支出金	千円				
			起債					
			その他					
			一般財源			2,304	2,347	3,700
	職員人数 (概算職員数)	人	—	0.55	0.55	0.40		
	人件費計 (b)	千円	—	2,539	2,989	2,356		
	総事業費 (a) + (b)	千円	—	4,843	5,336	6,056		
事業費内訳 (千円) R 01 年度	共済費 27千円、 賃金 2,184千円、 報償費 50千円、 旅費 11千円、 需用費 594千円、 委託料 704千円、 備品購入費 130千円							

指標値	本事業が属する総合計画の中施策の成果指標		指標名				目標値	
			—				—	
	指標名		単位	項目	H29年度 (決算)	H30年度 (決算見込)	R01年度 (予算)	R02年度 (目標)
	対象指標 (対象者数等)	≧二企画展入館者数	人	—	47,641	56,936	16,773	20,125
	活動指標 (活動量)	≧二企画展開催数	本	計画値	1	2	3	2
				実績値	1	2	—	—
	成果指標 (達成度等)	≧二企画展1回当たりの入館者数	人	目標値	21,384	32,482	5,591	10,063
実績値				47,641	28,468	—	—	
達成率				222.8%	87.6%	—	—	
定性的成果	—							

事務事業の評価 (Check)	妥当性	事業の実施に対する町民ニーズはあるか	④ ニーズに応じて実施する事業ではない		
		事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	③ 廃止・休止による影響は大きくある		
		今後も町が実施すべき事業か	⑤ 代替となる他機関でのサービスがないため、今後も町が実施する必要がある		
	効率性	事業費に削減の余地はないか	② ない		
		関連・類似事業との統合はできないか	③ 統合できない		
	有効性	事業の成果は得られているか	② 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である		
		事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	③ 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している		
	公平性	受益者負担は公平・公正か	A. 負担導入済	A-② 適正な受益者負担を導入している	
	過去の外部評価における指摘事項	—			
	主な改善経過(過去4年間)	平成29年度の開館に向けての調査、資料収集等を行い、開館後の展示等に反映させた。			
課題	収蔵環境の整備、収蔵資料の整理を継続して行う必要がある。				

取組内容の改善 (Action)	今後の方向性の判断	区分	<b>維持</b>	H30年度	—	H29年度	—	H28年度	—
		理由	社会教育施設(博物館)として、継続した活動を行っていく必要があるため。						
	課題解決への視点	必要な資料や情報を効率的に利用できるような相談に応じるサービスを展開し、来館者の知識向上に努める。							
	着手する事項	R01年度	館のテーマである吉田茂に関連した調査・研究活動等を継続するとともに、収蔵資料の整備を継続する。						
		R02年度	館のテーマである吉田茂に関連した調査・研究活動等を継続するとともに、収蔵資料の整備を継続する。						
	R01年度改善事項	収蔵資料の整備を継続して行い、資料の目録作成、収蔵環境の改善、一部資料のデジタル化を進めた。							
	記入日								
	令和2年1月29日								

予算事業名	旧吉田茂邸研修等事業								事業番号	10 - 23 - 08	
細分事業名	旧吉田茂邸研修等事業								シート作成日	令和1年8月9日	
予算科目	会計	01	款	10	項	05	目	03	事業	09	
	事業開始年度										平成29年度
事業終了予定年度										—	
部等名				課等名				係名			
教育部				生涯学習課				郷土資料館			

事業計画 (Plan)	総合計画	P	柱	—							
			部門	—							
			大施策	—							
			中施策	—							
			施策目標	—							
	事業の概要		根拠法令・条例等	大磯町郷土資料館条例							
			個別計画等	—							
			行政経営プラン 実施計画事業	実施番号	—			実施項目名	—		
			目的 (何のために)	旧吉田茂邸に特化した事業の展開							
			対象 (誰を・何を)	大磯町内外の観覧者に対して、独自の情報を発信する。							
		内容	現代史上の国政の重要な決断が下された舞台であることから、情報発信として各種講座等を行なう。								

事業実施 (Do)	執行体制		職員実施					
	事業費	財源内訳	直接事業費 (a)	単位	H28年度 (決算)	H29年度 (決算)	H30年度 (決算見込)	R01年度 (予算)
			国庫支出金	千円	—	270	316	598
			県支出金	千円				
			起債					
			その他					
			一般財源			270	316	598
	職員人数 (概算職員数)	人	—	0.40	0.40	0.65		
	人件費計 (b)	千円	—	1,129	2,174	2,122		
	総事業費 (a) + (b)	千円	—	1,399	2,490	2,720		
事業費内訳 (千円) R 01 年度		報償費 180千円、 需用費 367千円、 役務費 51千円						

指標値	本事業が属する総合計画の中施策の成果指標		指標名				目標値	
			—				—	
	指標名		単位	項目	H29年度 (決算)	H30年度 (決算見込)	R01年度 (予算)	R02年度 (目標)
	対象指標 (対象者数等)	事業参加者数	人	—	63	122	120	80
	活動指標 (活動量)	事業開催数	本	計画値	10	6	6	4
				実績値	4	6	—	—
	成果指標 (達成度等)	事業 1 回当たりの参加者数	人	目標値	20	20	20	20
				実績値	16	20	—	—
達成率				80.0%	100.0%	—	—	
定性的成果		—						

事務事業の評価 (Check)	妥当性	事業の実施に対する町民ニーズはあるか	③ 増大している		
		事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	③ 廃止・休止による影響はある		
		今後も町が実施すべき事業か	⑤ 代替となる他機関でのサービスがないため、今後も町が実施する必要がある		
	効率性	事業費に削減の余地はないか	② ない		
		関連・類似事業との統合はできないか	③ 統合できない		
	有効性	事業の成果は得られているか	② 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である		
事業の上位施策に向けた貢献度は大きい		③ 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している			
公平性	受益者負担は公平・公正か	B. 負担未導入	B-② 受益者はいるが、今後も公費により全額町が負担すべきものである		
	過去の外部評価における指摘事項	—			
	主な改善経過(過去4年間)	平成29年度の旧吉田茂邸開館以降、独自性を持たせた研修事業等を開催している。			
	課題	多様化、高度化する利用者の要求に沿った事業展開を進める必要がある。			

取組内容の改善 (Action)	今後の方向性の判断	区分	<b>維持</b>	H30年度	—	H29年度	—	H28年度	—
		理由	社会教育施設(博物館)として、継続した活動を行っていく必要があるため。						
		課題解決への視点	旧吉田茂邸としての独自性の高い事業を開催するよう努める。						
	着手する事項	R01年度	旧吉田茂邸で開催することが効果的である企画を検討、実施する。						
		R02年度	旧吉田茂邸で開催することが効果的である企画を検討、実施する。						
	R01年度改善事項	以下の講座・行事を開催した。 ・究め人講演会「星を究める」 ・究め人講演会「ウミガメを究める」 ・旧吉田茂邸写生会及び絵画コンテスト							
	記入日	旧吉田茂邸で開催することが効果的である企画として、小中学生を対象に旧吉田茂邸の写生会及び絵画コンテストを行った。企画を通じて、小中学生が吉田茂や近現代史に関心をもってもらう機会を創出した。							
	令和2年1月29日								